

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立久喜高等学校 定時制)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	個に目を向け、基礎学力の充実を図り、生徒全員の進級・卒業・進路希望を実現できる学校
重点目標	<p>1 生徒の授業参画意識を高め、一人一人に応じた学びを支援し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>2 健やかな心身の育成を図り、将来の生き方を考えさせ、希望進路の実現を図る。</p> <p>3 学校情報を積極的に発信し、地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を推進する。</p>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標				年度評価(月日現在)			実施 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	落ち着いた環境の中で授業が行うことができ、生徒の授業態度も良好である。しかし、学習の振り返りが必要な生徒や学習習慣が身につかない生徒、不登校傾向の生徒、日本語が母国語でないため日本語の理解力が不足している生徒等が少なくない。	○コミュニケーション能力、基礎学力等の向上、学習習慣等の確立を目指した生徒支援体制の一層の充実	①生徒の登校・授業への出席を習慣化させるため、保護者への連絡を密に行い、全教職員で情報を共有し、日常的に指導を行う。 ②個に応じた授業を実施するため、生徒の実態を的確に把握し、基礎学力が不足している生徒等には、教員や学習サポーターによる組織的で継続的な始業前補習等を行う。	①出席率の上昇が実現できたか(昨年度89.8%)。 ②4月から教員や学習サポーターによる組織的な補習体制が実現できたか。また成績優良者数増加や成績不振者数減少が実現できたか(昨年度、成績優良者18.4%、欠点保有者18.7%)。				
	個々の生徒が抱える課題の解決に向けて、組織的・効果的・継続的な支援を実施することが必要である為、全教職員の共通理解の下で生徒の支援を行う必要がある。	○保護者と連携し、個々の生徒の課題を把握して個に応じた課題解決のための取組を推進	①早期に生徒の社会性を向上させるため、ソーシャルスキルトレーニングを6回実施する。 ②教育局の事業「高校生自立支援事業」を最大限活用。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門性も活用し、全教員の共通理解の下、質の高い支援を行う。また専門的な意見を受ける機会を定期的に設ける。	①生徒の8割以上がソーシャルスキルの向上を感じられたか。(昨年度14項目中11項目79%) ②個々の生徒の課題解決を教員の共通理解の下で、組織的・継続的に支援できたか。また中途退学者数が昨年度より減少したか。(昨年度1名)				
2	生徒の問題行動も少なく昨年度の生徒指導案件は0件であった。今後も、多様な生徒が在学していく中、教員間で共通理解に基づいた組織的な生徒指導が必要である。また交通事故ゼロに向けた取組の継続が必要である。	○共通理解に基づく組織的・継続的な生徒指導の推進と生徒支援体制の充実	①問題行動やいじめ等の未然防止に努めるため、年3回の三者面談を継続する。 ②交通安全に関する意識を向上させるため、講演会を含め年3回の交通安全指導を継続する。	①問題行動、いじめ等の早期発見と未然防止が実現できたか。 ②交通事故発生件数ゼロが実現できたか。				
	1学年より進路意識を高める行事を系統的に実施している。卒業時の進路未決定者ゼロ、特に就職希望者は正社員での決定を目指した指導が今後も必要である。	○生徒の進路希望を踏まえ、第1希望を実現する組織的・計画的な進路指導の取組の推進	①行事・LHRの時間等を活用し、段階的なキャリア教育を各学期に実施する。 ②生徒の進路希望に応じた指導を希望が実現するまで継続する。 ③進路意識を高揚させるため「高校生自立支援事業」等を活用し、進路に関する講演会、就労体験等を行う。	①行事・LHRを活用した進路指導が計画的に実施できたか。 ②卒業時の進路希望100%を実現できたか。 ③組織的、計画的に進路講演会、就労体験等を実施し、生徒の満足度が増加したか(昨年度94.0%)。また、生徒が希望する企業等で就労体験が実施できたか。				
3	学校情報を様々な場面を通じて発信している。今後も継続的な発信を行うことで定時制教育への理解を広げると同時に、社会に開かれた教育課程へ向けた取り組みが必要である。	○工夫・改善した積極的な学校情報の発信	①中学生・保護者等の希望に合った学校説明会となるよう実施内容を改善する。 ②学校新聞の発行と、中学校、地元自治会への配布、回覧を継続するとともに、学校ホームページを更新し、定時制教育への理解を広める。 ③久喜市役所や商工会議所を通じて、講演会等を実施することで地域との協働教育を推進する。	①参加者の満足度及び参加者数が増加したか。(昨年度 説明会8組、夕方説明会9名参加) ②学校新聞の発行やホームページの更新が適宜行われたか。また生徒の意見等を掲載した学校新聞となったか。 ③講演会等を実施し、地域理解を進めることができたか。				